

哲学思想文化学コース・思想文化学分野（倫理学）



1. 組織



衛藤吉則 教授 （問い合わせ先：yeto@hiroshima-u.ac.jp）
日本倫理思想
教育倫理、発達障がい児教育
平和倫理



後藤雄太 准教授 （問い合わせ先：yugoto10@hiroshima-u.ac.jp）
ドイツ倫理思想
生命倫理
情報倫理



岡本慎平 助教 （問い合わせ先：sokmt@hiroshima-u.ac.jp）
英米倫理学
ロボット倫理
宇宙倫理

寺尾要子 分野事務

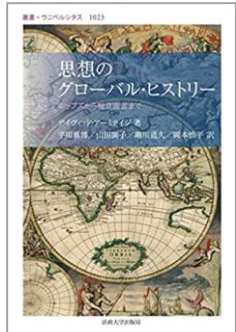
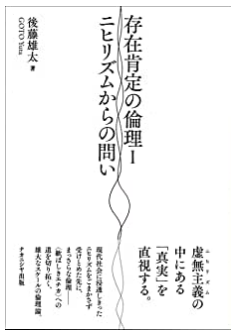
2. 教育・研究活動

(1) 概要

現代社会の要請に応えるために、応用倫理学の研究・教育体制の確立に力を注いできた。スタッフ全員が倫理思想史・倫理学の伝統的な古典研究（日本・ドイツ・英米）を続けるとともに、教育倫理、平和倫理、生命倫理、医療倫理、情報倫理、ロボット倫理、宇宙倫理などの応用倫理学分野にも積極的に取り組み、先端的な研究・教育をも進めている。また学会や研究会、あるいは公開講座や講演会や国際研究交流等を通じて、これらの研究成果が国内外に広く周知されるように努めている。



【教員の著書】



(2) 教育活動



[卒業論文]

平成 26 年度

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 日野林 和弥 | 「正義の多元性について」 |
| 大間 恵介 | 「ホスピタリズムと自己肯定感の関係とその影響について」 |
| 松下 晃大 | 『知覚の現象学』における身体性の研究」 |
| 高橋 真琴 | 「ハーバーマス討議倫理の研究」 |
| 波多野 瑠璃 | 「肉食動物の倫理 –ピーター・シンガーを中心にして–」 |
| 土井 久仁香 | 「性別の存在 性別における役割の差」 |

平成 27 年度

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 榎 大輔 | 「山本空外の思想の研究 –空外のプロティエーノス解釈を軸に」 |
| 岡崎 秀幸 | 「T.H.グリーン倫理学の研究 –その道徳的発展について」 |
| 添田 麻衣 | 「家族の観点からみた生命倫理」 |
| 藤田 哲道 | 「他者存在のためのファッション」 |
| 小滝 柊平 | 「ヘルマン・コーヘンの理想論」 |
| 多久 裕司 | 「カント倫理学と自律」 |

平成 28 年度

- | | |
|--------|----------------------------|
| 菊澤 昇吾 | 「パスカルの賭についての研究」 |
| 小林 直子 | 「レヴィナス研究」 |
| 竹川 えりか | 「人間の性格について～ショーペンハウアーを通じて～」 |
| 徳田 有紗 | 「消費社会の環境倫理」 |
| 武内 大喜 | 「スッタニパータにみる初期仏教」 |

- 廣橋 敬也 「山本空外の「国体思想」解釈」
- 平成 29 年度
- 宮崎 彩香 「道徳の起源としての共感」
- 富田 大智 「ジオパークにおける場所論－「ジオ・マインド」からの考察」
- 鬼塚 勇士 「テクノ・ユートピアは実現可能か」
- 潮平 匠 「孤独について－『ツァラトゥストラ』を通じて」
- 中井 拓海 「「愛」に関する考察－日常生活における愛の存在へ」
- 中本 眞太郎 「犬・猫の殺処分問題について」
- 山田 明 「他者理解のための「言語」の位置付けの研究」
- 信岡 美咲 「安楽死は生命倫理的に許されるべきか」
- 原田 晴道 「社会契約説にみる利己心」
- 西川 優花 「死のあり方について」
- 平成 30 年度
- 井上 顕悟 「親鸞における人間観－悪と倫理の関係を軸として」
- 浅野 伽耶 「現代における討議倫理の構築－ハーバーマスを手がかりに」
- 鑪 恵美 「ボルノー教育学の日本的受容」
- 寺澤 クリスティーナ 「「自殺」の善悪における考察」
- 中西 捷渡 「セネカの道徳論における“clementia”の位置づけ」
- 秀高 里帆 「産まれてくること－ベネター論を軸とした中絶の是非」
- 三村 聖也 「現代日本人の死生観」
- 山根 伊織 「現代の幸福観」
- 令和元年度
- 日下 翔太 「サッカーにおいて高校生がプロのような意図的なファウルをすることは許されるのか」
- 隈部 晴香 「我々は何を考えて自分の人生に取り組むべきなのか：トマス・ネーゲルの論点を出発点にして」
- 田首 恭平 「競技スポーツにおける公平性について：セメンヤ問題を考える」
- 畠本 健 「超越的人工知能（HLMI-Human level Machine intelligence）と人類のこれからについて：シンギュラリティとの向き合い方」
- 早川 直希 「現代の公衆衛生における古典功利主義の射程：エドウィン・チャドウィックの思想から」

〔修士論文〕

- 平成 26 年度
- 前原 明香 「アーレントと居場所としての関係性」

平成 27 年度

- 劉 姣 「中国における人口政策の変化と倫理的課題」
杉岡 幸代 「R.シュタイナーの幼児教育思想に関する研究－実践家 E.M.グルネ
リウスとの関係を軸に」
小田 真衣 「日中韓歴史問題の克服の在り方－和解と赦しの視点から」

平成 28 年度

- 隅原 聖子 「福祉・医療現場における意志尊重の欺瞞性」
高橋 真琴 「ハーバーマスの討議における同意の解明」
余 佳城 「高等教育機関における情報倫理教育－日中比較の視点から－」

平成 29 年度

- 馬 婧 「安楽死の立法可能性についての考察－日中比較を通して」
馬 咏倩 「現代中国における高齢者問題の諸相」
岡崎 秀幸 「日本における T.H.グリーン思想の展開－グリーン的権利思想の
側面からの戦中・戦後の社会思想の一潮流についての考察」

平成 30 年度

- 許 曉萃 「シュタイナー教育と中国の「素質教育」についての研究」
斉 錦軒 「谷川徹三「平和の哲学」－世界連邦論を中心に」
鄭 西吟 「中村雄二郎の「臨床の知」に関する研究」

令和元年度

- 徐 曉盈 「ロボットによる自閉症児の療育の倫理性に関する考察」
多賀谷 誠 「カントの認識論と自由概念－H・E・アリソンの「取り込みテーゼ」
によるカント哲学の再解釈－」
任 雅楠 「学校教育におけるデューイ教育思想の受容と展望に関する考察－日
中比較の視点から－」

〔博士論文〕

平成 26 年度

- 竹田 敏彦 「学校教育法第 11 条但書(体罰の禁止)に関する研究」
奥田 秀巳 「信頼の倫理的考察」
岡本 慎平 「J・S・ミルの経験論哲学」

平成 29 年度

- 嶋崎 太一 「カントにおける自然の形而上学の体系」

令和 2 年度

- 余 佳城 「研究倫理に関する考察－「所有権」と「正義」を中心に」
黄 萍 「「甘え」に関する言語・倫理学的研究」
蔡 源玥 「医療従事者患者関係の再考－信頼関係の再構築に向けて－」

(3) 研究活動

西日本応用倫理学研究会や倫理学研究室合同研究発表会の開催

平成 26 年度

9 月 越智貢「強制労働について－「戦争」と「和解」の意味－」

(西日本応用倫理学研究会)

2 月 学部 4 年生卒業論文発表会

2 月 竹田敏彦 (学位請求論文公開発表会)

「学校教育法第 11 条但書(体罰の禁止)に関する研究」

奥田秀巳 (学位請求論文公開発表会)

「信頼の倫理的考察」

岡本慎平 (学位請求論文公開発表会)

「J・S・ミルの経験論哲学」

平成 27 年度

9 月 奥田秀巳「和解としての信頼」(西日本応用倫理学研究会)

2 月 伊藤潔「教育基本法における『教育の宗教的中立性』と和解」(同会)

11 月 学部 4 年生・大学院修士課程修了予定者 中間発表会

2 月 学部 4 年生卒業論文発表会

平成 28 年度

11 月 学部 4 年生・大学院修士課程修了予定者 中間発表会

2 月 修士論文・卒業論文発表会

読書会 (Adam Smith “An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nation”) 毎土曜日

平成 29 年度

11 月 学部 4 年生・大学院修士課程修了予定者 中間発表会

2 月 修士論文・卒業論文発表会

読書会 桃太郎をドイツ語で読む

平成 30 年度

10 月 学部 4 年生・大学院修士課程修了予定者 中間発表会

2 月 修士論文・卒業論文発表会

読書会 ヘンリー・アリソン『カントの自由論』(法政大学出版会) 毎金曜日

令和元年度

11 月 学部 4 年生・大学院修士課程修了予定者 中間発表会

2 月 修士論文・卒業論文発表会

2 月 余佳城 (学位請求論文公開発表会)

「研究倫理に関する考察－「所有権」と「正義」を中心に」

令和 2 年度

7 月 黄萍 (学位請求論文公開発表会) 「「甘え」に関する言語・倫理学的研究」

8月 蔡源珮（学位請求論文公開発表会）

「医療従事者患者関係の再考—「信頼関係」の再構築に向けて—」

3. 6年間のトピックス

2020年現在：倫理学分野は哲学・倫理学系ユニットでは留学生・社会人を含む学生数が最も多く、令和2年度は、大学院生が22名（後期13名、前期9名）、学部生が46名の計68名の学生が在籍している（この内、留学生は11名）。

(1) 入学（分属）・卒業・就職・留学状況

〔学部分属〕哲学・思想文化学コース（倫理学分野）

平成26年度 9名
平成27年度 10名
平成28年度 6名
平成29年度 14名
平成30年度 11名（+編入2名）
令和元年度 13名

〔博士課程前後期入学〕倫理学分野

平成26年度 3名
平成27年度 3名
平成28年度 4名
平成29年度 2名
平成30年度 3名
令和元年度 5名

〔卒業・修了・退学〕

平成26年度	学部	6名	博士課程前期	1名	博士課程後期	3名
平成27年度	学部	7名	博士課程前期	3名	博士課程後期	0名
平成28年度	学部	6名	博士課程前期	3名	博士課程後期	0名
平成29年度	学部	10名	博士課程前期	3名	博士課程後期	1名
平成30年度	学部	8名	博士課程前期	3名	博士課程後期	0名
令和元年度	学部	6名	博士課程前期	3名	博士課程後期	1名

〔就職〕

平成26年度	学部	5名	博士課程前期	1名	博士課程後期	3名
平成27年度	学部	5名	博士課程前期	3名	博士課程後期	0名
平成28年度	学部	6名	博士課程前期	2名	博士課程後期	0名
平成29年度	学部	10名	博士課程前期	0名	博士課程後期	2名
平成30年度	学部	6名	博士課程前期	0名	博士課程後期	0名

令和元年度 学部 5名 博士課程前期 1名 博士課程後期 1名

近年の就職先：大学、県立高校教員、マスコミ、国家公務員、県庁、市町役場、一般企業（金融・広電・ベネッセ）

〔進学〕

平成 26 年度 1 名
平成 27 年度 2 名
平成 28 年度 2 名
平成 29 年度 2 名
平成 30 年度 5 名
令和元年度 3 名

〔留学〕

平成 26 年度 1 名
平成 27 年度 0 名
平成 28 年度 3 名（毎年、数名の学生がスタートプログラムを利用して海外に短期留学を行う。内 1 名は、HUSA 交換留学制度によりドイツのチュービンゲン大学に留学）。
平成 29 年度 1 名
平成 30 年度 0 名
令和元年度 1 名

(2) 行事実施状況（セミナー、研修、合宿、調査など）

西日本応用倫理学研究会、科研研究例会、広島大学倫理学研究会、学校と道德教育（SAME）研究会、帝釈峡合宿を開催。

4. 4年間の自己点検・評価

教育面では、学生の潜勢力を開発して個性豊かな人材を育成するために、基礎・応用・発展の各段階に分けたプログラム方式の専門教育を推進するとともに、少人数教育のメリットを生かして、対話重視の個人指導を心掛けてきた。また院生に関しては、個人指導に偏ることなく、研究会開催など集団的な指導体制をとることで、その能力の育成に努めてきた。その代表的な成果として、大学院生によるレフリー付き全国学会誌への掲載（嶋崎太一「物質は *substantia phaenomenon* である」—カント自然科学論における実体の問題—」日本カント協会編『日本カント研究』第 15 号、2014 年）や海外での研究発表、小田真衣「日韓 その赦しと和解—ハンナ・アーレントを手がかりとして—」日韓次世代学術フォーラム第 12 回国際学術大会、2015 年 8 月、高麗大学）や、学部学生における 2014 年度の学長表彰受賞（文学部代表）、2017 年度平和モニュメント見学レポート優秀

賞（受講した総勢 7500 人の学生のうちから選出）、2015 年と 2016 年と 2020 年の文学部卒業論文優秀者などがある。

研究面では、伝統的な倫理思想の研究に加え、現代社会の要請に応えるために、科研費など外部資金の獲得を通じて、応用倫理の先端的で国際的な研究にも力を注いできた。平成 26 年度と平成 27 年度に関しては、平和研究の一環として、研究分担者衛藤吉則・後藤雄太「「和解」概念の展開－平和への応用倫理的アプローチ」（基盤 B：平成 24 年度～平成 26 年度）、「「平和」理論の構築－「和解」概念に着目した応用倫理的アプローチ」（基盤 B：平成 27 年度～平成 29 年度）、教育倫理研究として研究代表者衛藤吉則「シュタイナー教育の今日的意義－能力概念に基づく国際調査」（基盤 C：平成 25 年度～平成 29 年度）、「シュタイナー教育とモンテッソーリ教育に基づく発達障害児教育モデルの構築」（基盤 C：平成 30 年度～33 年度）、ロボット倫理研究として分担研究者岡本慎平「工学的関心に則したロボット倫理学の構築」（基盤 C：平成 25 年度～平成 28 年度）、「日本型「ロボット共生社会の倫理」のトランスディシプリナリーな探求と国際発信」（基盤 B：平成 28 年度～平成 32 年度）、宇宙倫理研究としては、「人類の宇宙進出に伴う宇宙倫理学確立のための基礎研究」（挑戦的萌芽：平成 28 年度～平成 31 年度）を進めてきた。また実践研究としては、衛藤が北九州市に発達障がい児のための教育施設を立ち上げ、シュタイナー教育に基づく療育実践を行っている。

関連ホームページ

- ・ 広島大学倫理学研究室 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/mlethical/>
- ・ 衛藤吉則研究室 <http://www.etosemi.hiroshima-u.ac.jp/>



- ・ NPO 法人シュタイナー&モンテッソーリ・アカデミー
<http://steiner-montessori-academy.com/>

